



新しい感染症との私達の闘い

大船キャンパスの東山ではリスが枝をつたい、森の中からは鶯^{うぐいす}の鳴き声が響き、自然の世界は、こうして例年のように穏^{おだ}やかな春が訪れ、爽^{さわ}やかな初夏がめぐってまいります。しかし、それに引き換え、私達人間の世界は、今は世界中が新型コロナウイルスによって大変な難儀を強いられています。

今この原稿を書いているのは6月3日のことですが、既に政府の緊急事態宣言が解除されたとはいえ、医学・疫学的には2波、3波と、なお予断を許さない状況にあって、読者の皆様も、さぞ不安な毎日、もどかしい日々を送っておられることと思います。本当にお察しいたします。先ずもって、皆様の健康上の、また生活上の安全をお祈り申し上げます。

と同時に、学校法人としても、全力を挙げて、その安全を確保し、この学園に集う園児・児童・生徒・学生、そして教職員の方々を守り、幼稚部は幼稚部の、初等部は初等部の、中等部・高等部は中等部・高等部の、そして大学部は大学部の、実行されるべき本来の教育活動を如何なる方法・手段を用いても実現してまいりたいと計画しています。また、この2月来、非常時の中にありながら、何とか恙^{つづが}なく今日まで辿り着くことが出来たことは、偏に保護者・保証人の皆様は元より、このキャンパスに集う全ての方々のご理解・ご協力・ご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

早いところでは3月から、修学を予定通り完成させるためにと、各部で学齢期に応じたメディアを活用したオンライン授業を実施しております。この『学園だより』では、それぞれの担当者から各部の支援体制について詳しく紹介してもらおうことにしております。

殊に、私も学長として授業を受け持つ大学部は、5月12日の新学期へのオリエンテーションから、実質的には4月から始まっているのですが、学生諸君とはオンラインでの情報交換を重ねてまいりまして、講義する者・受講する者、共にお互いの努力で、お蔭様で18日からの授業も目下順調に進捗しております。

また、これまで気がつかなかったオンライン授業の興味深い特性も見えてまいりました。オンライン授業になることによって、所謂「聴きっぱなし」がなくなる、却って恥ずかしがらず活発に質疑応答が行われるようになる、体調不良やハンディキャップを負った方が受講する有効なツールとなる、またオンデマンドということになれば、何時でも何処でも何回でも繰り返し講義が視聴出来る。それ用に資料を準備する先生方も、課題に解答することをもって出席と認められる学生諸君も大変だとは思いますが、新しいメディアは、新しい授業方法を生み出し、思わぬ形で教育の質を高めていくのかも知れません。第一、今後は休講ということがなくなるのかも知れませんね。已^やむを得^えざる対応から始まったオンライン授

業ではありますが、何か新しい教育を手繰り寄せる創造的な契機、そこまで言わなくとも、既存の教授法を見返してみる反省の契機になっていくのかも知れません。

今、日本も世界も、新しいウイルスという敵によって、その知恵と力を試されているのだと思います。政治家の方々は政治家として、医師や看護師、ワクチン開発の研究者といった医療関係者の方々は医療関係者として、私達のような学校関係者は学校関係者として、リスクをどのように管理し、どのように工夫して、また時にこうしたオンライン授業も導入しながら、^{あた} ^{かぎ}能う限り本来の学事日程に沿って授業を実現していこうとするのか。そして、園児・児童・生徒・学生の皆さんは、これまで以上に自らの体調管理に気をつけ、丈夫な体を作り、窮屈な、不安と不便の中にありながら、自分の本分である勉学をどのように遂行し、望むべきキャリアアップをどのように図っていくのか。皆さんも、それぞれの立場で、課せられた課題を放棄することなく、闘っておられるのだと思います。私達教職員もまたそうです。この試練を乗り越えて、私達は、お互いに、もっともっと強くなっていきましょう。

[>前のページへ戻る](#)